

が ん ば

島三小育友会報
発 行 部
広 報 部

〔第66号〕



修学旅行で 大喜びの六年生

(フェリー船上にて)

日々新たに

育友会長 前山 四郎



育友会の皆様には、年度も改まり、新しいお気持ちで、日夜、子どもさん方の健全育成のため、ご尽力のことと存じます。

五十七年度の専門部の行事内容は、五月十七日の代議員会で決定いたしました。継続行事が多くありますが、内容にさらに検討を加えて、みのある行事にしていきたいと思っております。

育友会は、より時間をかけて皆さんで話しあい、出た結論を実行し、さらにその中で必要なものは習慣化するということが必要になってまいります。習慣化されたとき、伝統というものが培われていきます。

例えば、あいさつが、他校の子どもさんにくらべて少しよくないということであれば、どのようにするか話しあい、実行に移す必要があります。実際には長い時間を要するでしょうが、地区ぐるみで取り組んだ成果は、学校の特色、

さらに地域の特色として伝統化されていくでしょう。専門部行事計画以外にも、町内育友会・学級育友会においても、必要性のあることを恒常的に取り組まれるようにご検討をお願いします。

近年、家庭教育の充実がさげられております。子どもたちは、私たち大人にないすばらしいものをもっています。しかし、全般的に受身で物事を考える傾向があるといわれます。いろいろな活動の中に子どもたちの創造性を伸ばすような取り組みもお考えになってはどうでしょうか。

今日の子どもは、昨日の子どもではありません。子どもたちは日々新たにです。子どもたちにも、今日苦しいことがあっても、それが明日の糧となれば、すばらしいことです。非行などという耳ざわりな言葉から早く脱却して、「がたっぱら」ともいわれた、活力のある三小校区にもどりたいたいものだと思います。

「伝統を生かし 新たな子ども教育を」

学校長 江崎勝利



三小 校長への内示を受け、わたしの心

は、よしやるぞといった気持ちと、何となく避けたいという気持ち、しばし錯綜しました。

というのも、三小は母校であり、青年教師時代十三年間お世話になった学校であるだけに、責任の重大さを感じたからです。

でも、三小を離れた二十三年間は、それぞれ個性を持つた多くの人々との出会いによって受ける有形無形の豊かな人間性が、何にもかえ難い貴重なものとして、わたしの心を育ててくれました。

辞令を受けて三小に歩を向けたわたしを出迎えてくれたのは、懐かしい校門前の階段と堂々たる本館だけといってよいくらいで、想い出深い白山もとれていい、明るさいっぱいの環境に変わっていました。

校門にはいった途端、百周年記念事業として建てられた「たゆまざる歩みおそろしかたつむり」(北村西望先生の作・書)の記念碑が目に見え、たゆまざる歩みおそろしのことばと、碑の裏面に書かれた「人は教育によってのみ人となる」のことばが相まつて、わたしの心に、いたく刻まれました。それと相對して建っている天皇皇后陛下御視察の記念碑。その当時あと二年間三小に勤めていたらお会いできたのにと感慨無量で校庭を一巡しました。

仕作業で。現在の造成技術からすれば、まさに原始的な方法による埋立作業でしたが、学校や子どもを思う心からの無言の作業であったと思えます。わたしは、子どもたちにもこのような美しい汗の結晶としての努力が、このプールの底に秘められていることを、しぜんな形で感じとらせたい気持ちでいっぱいです。

ここにも二つの記念碑があります。土地造成とプール建設完成の碑です。二つの碑の意味は違いますが、共に通じるものは、子や孫を思う心が一致協力に結びつき、その情熱が汗となり、その汗がプールの水となり、三小の子どもを守り育てていると思っはいけないでしょうか。プール建設の碑文に「身をきたえ、心をきたえ、大いなるゆめをもて」と刻まれています。白土地区の大いなる心をこころとして、子どもたちの成長を願い、はつらつたる三小っ子の育成に生かし続けなければと念じました。

四月の職員会議で、三小の教育目標を決めました。「わたしたち教師は、一人一人の子どもを大事にする教師、研修に励む教師、心身ともに健康な教師であることを自覚し、子どもたちの実態や三小地区の要望の上にたち、信頼と愛情を基盤として、知・徳・体の調和のとれた、実践力のある心豊かな子どもを育成を目指し、その無限の可能性を伸ばそうとするものである。そのため、次のような学校像、児童像を願い、その実現に努力する。」というのが大前提です。そして、

- 目指す学校像とは、
 - 静かな中にも活気あふれる学校
 - 美しさをほだに感ずる学校
 - 協力し汗してやりぬく学校
- 目指す児童像としては、
 - よく考えて活動する子ども
 - すなおで心の美しい子ども
 - たくましくがんばる子ども

これを学校・学級で行動目標化し、三小の子どもの育成に職員一丸となって取り組まれます。家庭でもその趣旨をふまえて、御協力くださるようお願いいたします。

後になってしまいました、三小育友会の若さと意欲的な行動には頭がさがります。殊に役員の皆様の積極性にはたじたじするくらいです。

子ども・父母・教師を大きな相互信頼のパイプでつなぎ、心のふれあいを潤滑油として益々充実発展するよう、協働していこうではあります。最後に「がんば」についてひとこと「がんば」は島原の味、いや、みなと白山の味ですね。知らない人にはその猛毒が恐れられていますが、知った人には美味となる。子ども・父母・教師、ともに猛毒(個性と専門)を持っていきます。協力の仕方いかんで、毒にもなれば薬にもなります。がんばの語源は、「がんばば食うときヤガンオケに片足ばつっこんだ気持ちで食わにゃんと」ということだからだと聞いていますが、その意味を壮とすべきではないのでしょうか。がんばを食う気持ちで事に当たれば、出来ないことはないといふ三小氣質でがんばりましょうという事です。ね。「オルモガンバルケン、アタンモガンパツクレナヘイ。」

昭和五十七年度島三小育友会 活動方針

- (一) 会員一人一人子どもの道徳性を高めるために努力する。
—— おもいやりのある子ども ——
- (二) 会員の研修活動をさかんにし、自分を高める。
—— よき父よき母になる ——
- (三) 育友会のすべての活動に進んで参加する。
—— さそい合い集会 ——

育友会 役員

会長 前山 四郎(蛭子町 二一三三八九)
 副会長 成瀬 博功(霊南 二一四四一一)
 同 芝田 扶実子(栄町 二一四五一一)
 監査 吉田 重信(霊南 二一五〇四八)
 同 佐久間 ガクジ(新山東 三一〇三六九)

専門部活動紹介

交通部長 小島 健一

はからずも常任委員に選ばれ、また、未経験の交通部を担当することとなりましたが、

他の専門部同様、各町内育友会員、代議員皆様のご協力なしには事業の実施運営、目的達成は困難であります。去る五月十七日の代議員会

において五十七年度の活動内容が決定しましたが、交通部としては、定着してきました五の日の交通指導(始業式、終業式、夏休みの登校日、運動会等も含む)を各町内育友会の協力のもとに継続していきたいと思っております。この交通指導はいろんな事情もありましようが、一部の会員・役員にのみ任せるのでなく、出来れば全育友会員が交替でその当番にあたるのが望ましいと思っております。自転車の乗り方についても、いろいろと意見が出され、その対策に苦慮しているところですが、やはりその徹底は、学校 育友会 家庭の連携、そして交通安全・マナーに対する再認識だと思います。特に、自転車に初めて乗れるようになった三年生あたりに対する家庭の注意、指導が肝要であります。

よその子にも注意しあつて地域ぐるみの交通安全運動を展開し、事故のない町になるよう育友会員皆様方のご協力ご指導をお願いいたします。

保健給食部長

岩本 宏三

保健給食部のスタッフは、

先生二名(男・女各一)部員六名(男一・女五)計八名です。部活動計画は前年度同様で、今年には特に保健の方にも力を注ぎたいと思っております。部長・副部長始め全員が初めての部員で、何もかもわからないことばかりなので、育友会員の皆様方にはいろいろとご迷惑をかけると思っておりますが、先生方、前部長さんのご指導を得て、頑張っていくつもりです。その上会員の皆様のご協力をお願いします。

学級部長

山口 ヤス子

育友会活動の中で一番の要学級部を申し渡され、全くとまどってしまいました。

未経験者ばかりでの育友会活動と云う航海に出る訳ですから、危なっかしい舵取りとなることでしょう。しかし強い味方「中島先生」がおられます。もう何年も学級部を経験しておられますので「ホッ」としている所です。どうか皆さん、この危なっかしい私達学級部を温かく見守って下さいませようお願いします。さて、今年度の活動計画ですが、昨年の線はくずさない

ようにと云うことでしたので学級代議員の研修会を年二、三回はやるうと案を持っていましたが、日程の都合上まず一学期の初めに一回はしなくてはと云うことで、五月末頃に行うことになりました。

六月の「学級対抗バレーボール大会」はもう定着したと云う感じですが、いつも問題となる弁当、お茶の件等も今年各自持参を厳守していただきまして、学級代議員さんの物心両面の負担を軽減しようと思つて決定しました。会員の皆様のご協力をお願い致します。三番目の講演会を取りやめて、皆さんが気軽に参加されるようにと三小におられる顔見知りの先生方に話しを聞き、あるいは質問をしたりして、道徳的な父母の勉強会をしようと思つて決まりました。どのような型ですが、学年別にするとしたら、児童の年令に応じたテーマで話をしていただくことになると思います。以上のような方向で学級部全員で頑張っていこうと思っております。



友会専門部活動計画

9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
・町内訪問		・講演会				
・町内訪問 ・町内巡視 ・生活標語の掲 示(2回目)	・町内巡視	・町内巡視	・町内巡視 ・生活標語の掲 示(3回目)	・町内巡視	・町内巡視	・初市巡視 ・生活標語の掲 示(4回目)
			・研修講演会 (学級部会 前)			
・親子フットベ ースポール大会		・町内対抗バ レーボール 大会				
		・学校整美作 業				
・5の日の交通 指導	・5の日の交通 指導	・5の日の交 通指導	・5の日の交 通指導	・5の日の交 通指導	・5の日の交 通指導	・5の日の交 通指導
	・試食会 (1年生の父 兄)		・「冬休みの 保健だより」 の発行		・料理講習会 (6年生の 父兄)	
	・「がんば68 号」の発行		・「がんば69 号」の発行			・「がんば70 号」の発行
		・市連Pバ レーボール大 会	・常・代議員会			・常・代議員会
・夏休み作品展 ・プール納め会	・大運動会 (3日)	・遠足	・九P大会 (1・2日沖繩)	・新年おたの しみ会 ・マラソン大 会	・なわとび大 会	・チビっ子まつ り ・6年生を送る 会

昭和57年度 島三小育

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月
教 養			<ul style="list-style-type: none"> ・研修旅行 ・新会員の研修 	<ul style="list-style-type: none"> ・町内訪問 	<ul style="list-style-type: none"> ・町内訪問
生 活		<ul style="list-style-type: none"> ・町内巡視 ・生活標語の募集 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活標語の掲示 (1回目) ・町内巡視 ・生活部研修会 	<ul style="list-style-type: none"> ・町内訪問 ・町内巡視 	<ul style="list-style-type: none"> ・町内訪問 ・町内巡視
学 級		<ul style="list-style-type: none"> ・学級代議員研修 会(28日) 	<ul style="list-style-type: none"> ・親睦・バレーポー ル大会(27日) 	<ul style="list-style-type: none"> ・研修講演会 (学級部会前) 	
体 育		<ul style="list-style-type: none"> ・先生、役員親睦 球技大会 	<ul style="list-style-type: none"> ・水泳教室 (救助法) 	<ul style="list-style-type: none"> ・町内対抗球技大会 (25日) 	
環 境				<ul style="list-style-type: none"> ・学校整美作業 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校整美作業
交 通	<ul style="list-style-type: none"> ・5の日の交通指 導 	<ul style="list-style-type: none"> ・5の日の交通指 導 	<ul style="list-style-type: none"> ・5の日の交通指 導 	<ul style="list-style-type: none"> ・5の日の交通指 導 ・自転車の点検 	
保 給			<ul style="list-style-type: none"> ・研修視察 	<ul style="list-style-type: none"> ・「夏休みの保健 便り」発行 	
広 報		<ul style="list-style-type: none"> ・「がんばん66号」 の発行 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習会 (広報誌の作り方) 	<ul style="list-style-type: none"> ・「がんばん67号」 の発行 	
事 務 の 局 他	<ul style="list-style-type: none"> ・育友会総会 ・常・代議員会 			<ul style="list-style-type: none"> ・常・代議員会 	
学 校 行 事	<ul style="list-style-type: none"> ・入学式 ・1年生を迎える 会 		<ul style="list-style-type: none"> ・創立記念日 (1日) 	<ul style="list-style-type: none"> ・七夕まつり 	<ul style="list-style-type: none"> ・県P大会 (5日6日長崎市) ・日P大会 (25日26日東京)

が ん ば

体育部長 熊本勇治

体育部の行事は、十七日の
 代議員会で内定しております。
 これからの水泳シーズンに前
 に、六月に父兄の方々へ正し
 い救助法の指導を計画してお
 ります。例年の子供対抗球技
 大会は、男子ソフトボールは
 霊丘公園、女子フットベース
 ボールは三小運動場で七月二
 十五日に実施します。
 九月は親子フットベースボー
 ル大会です。
 大運動会は秋に開催され、育
 友会員の参加種目も予定され
 ています。
 又、町内対抗育友会、バレーボ
 ール大会は都合で十一月とし
 ました。その他、市ソフトボ
 ール大会、市連Pバレーボー
 ル大会、フットベースボール
 大会、マラソン等、種々の行
 事が決定しています。
 体育行事は会員皆様の多く
 の参加が必要となってきます。
 体育部は私を初め、新役員ば
 かりです。とにかく一生懸命
 頑張ろうと部員一同皆様の協
 力をよろしく願います。
 色んな意見や希望をとり入れ
 ていきたいと思っています。
 どんどんお知らせ下さい。

教養部長 中山博喜

教養部は、会員の皆様か、
 教育への理解を深めたり、教
 養を高めるために、いろいろ
 な研修の機会を計画し、実施
 する役割をもっています。名
 前からして、大変に堅苦しい
 感じを受けますので、誰でも
 が、楽しく研修のできる内容
 を企画していくつもりです。
 お互いにさそいあわせて参加
 してください。本年度は次の
 ような計画をたてています。
 ◎新会員研修会
 (六月の予定)
 新会員の皆さんに、育友会
 への理解を深めていただくた
 めの研修です。
 ◎研修旅行(六月)
 保健給食部との合同企画で
 す。他校育友会と交流すると
 共に、会員同志の親睦もはか
 ります。
 ◎町内訪問(七月～九月)
 生活部との合同企画です。
 本年度で四回目。どうやら行
 事としても定着したようです。
 本年度は、夫婦そろっての参
 加を特に願っています。
 ◎教育講演会(未定)
 家庭教育などについて、講
 師を招いての教育講演会。わ

かりやすく、しかも楽しく聞
 ける内容を考えています。
 環境部長 高原寿一
 環境部に籍を置いて五年目、
 毎年毎年、年度当初は皆様の
 ご要望を含めて、あれもこれ
 もしなくては、こういうこと
 も……と思いをめぐらし、張
 り切る訳ですが、結果的には
 ちょこちょこしたことでお茶
 をにごす程度に終り、最後は
 いつも大いに反省しなければ
 なりません。
 さて、今年度の事業として
 一、相撲場横の足洗場の設置
 一、テニスコートの整備
 一、プール周辺の除草
 等を計画致しております。
 又、一年生のトイレの改築、
 公民館の移転問題等ございま
 すが、これらはいずれも市の
 予算を必要と致しますので、
 早期の実現は困難な面がある
 と思われませんが、一歩でも二
 歩でも改善へ近づける様に努
 力は続けたいと思っております。
 いずれの場合も、会員皆様
 のお力添えがなければできま
 せんので、その折にはどうぞ
 よろしくご協力の程お願い致
 します。

広報部長 山下利秋

五十七年度の広報部は、大
 限・坂庭両先生を中心に部員
 八名を加え、十名のスタッフ
 で活動を開始しました。
 学校と育友会のパイプ役を
 果たすこの重要な広報紙作り
 に部員一同、大いに勉強しな
 がら頑張っていこうとはりき
 っています。
 今年度からの新企画として
 コラム(コーナー)欄を設け
 ました。大体の課題を四つ程
 あげてみます。
 ・子の目、親の目、教師の目
 みなさんのみじかな家庭から
 現場の先生方から、又子ども
 達から見た意見、要望、ユニ
 ークな話などお寄せ下さい。
 ・町内だより、子どもクラブ
 みなさんの町内の特色、競技
 大会練習等の苦勞話……
 ・こんにちにはみなさん
 (卒業生)
 卒業された方からなつかしい
 近況報告を……
 ・投書欄(がんばの箱)

生活部長 古井久輝

投書箱を用意しました。みな
 さまの声のポストとして、が
 んばの箱を大いに利用してく
 ださい。味のあるがんばにす
 るため、読後の感想、ご意見
 をお待ちしております。

生活部長 古井久輝
 本年度も生活部は、町内訪
 問をメインとして町内巡視、
 生活標語の募集を掲示、初市
 巡視を計画しております。町
 内訪問も今年で四年目となり、
 何かマンネリ化した部分もあ
 るのではないかと思います。
 学校側の話を聞くだけの集り
 ではなく、学校と町内、父母
 との話し合いの場となるよう
 なり、意義のある会になる
 ように努力していきたいと思
 っております。その為にも会
 員の皆様より何か良いアイデ
 アとか、こうすればどうだろ
 うかとヒントをくださいれば幸
 いです。町内巡視の方も危険
 個所の点検と共に、それに伴
 う適切な処置もしていかなけ
 ればならないのではないかと
 思っております。生活部一同
 今年も子ども達の健全育成の
 為活動していきたいと思いま
 す。よろしくご協力下さい。

「こんにはよろしく」

今年も、新しく、七名の先生方をお迎えしました。昨年からは、よろしくですが、五月号に間に合わせるために、先生方には、年度初めの御多忙な中を、短期間で原稿をまとめていただき、大変ありがとうございました。先生方の新鮮な目と、エネルギーにあふれるフアイトで、島三小発展につくされるものと思えます。



学校長 江崎勝利先生

大正十四年九月二十九日、鯉子町にある生家の大きなたらいの中で、当時、浜の川におられた伊藤産婆さんに、うぶ湯をかけていただいた。元気なうぶ声をあげたか、おとなしくだまって生まれたかは覚えていないが、それから人間の仲間入りをし、現在に至っている。

趣味や特技とはいえば、父は石橋をたたいて渡る型。魚つり・盆栽・庭木づくりが好きで、時折りうたいもやっていた。母は和裁の家庭教師を

していた。血は争えないもので、そのまま両親のものを引き継いでいるようだ。

三小はいうまでもなく母校。二小の子どもは一度、二小もは三度いわなきやういことと聞かない。「と耳にしたことがあるが、あまりよくはないが、その伝統を築いてきた一人であることに間違いはなさそうである。

時々廊下で並んで座っている子ども達を見ると、昔を想い懐かしく感ずると同時に、責任の重みに身のすくむころである。どうぞよろしく。

理科専科 本多 茂先生

久しぶりに古巢へ帰った感じで、なんとなくそのぬくもりを子ども、親、学校のなかに、探し求めている今日此頃です。

昭和四十三年、九州一を誇るプールができたのが三年生で赴任し、泳ぎ初めは三年生でした。喜々として歓声をあげすべり台に水を流し、何度もすべったその子たちが、最早や二十三才になる。社会人としてきつとがんばっていることでしょう。

五年一組 山崎 瞭先生

「あきら」と読みます。意味は大変明るく千里先まではつきり見とおすことだそうですが、一里はおろか全く先を見とおすことができず失敗をくりかえしてあります。先だって「瞭にしたなら」と子どもにいわれ調べてみたら同じ「あきら」でも、ほのかに明るく一寸先がよりやく見えるとの意味だそうで、家中大笑いをしました。

趣味は囲碁です。時々ひまをみては打っていますがなか

また、白山地区のシンボル白山のとりこわしがあり、四、五台のブルで白山の姿が、たちまちに消えていくようすを、目前にし、くいているようにブルのスケッチに鉛筆を走らせたのも、ついこの間のようには思われず。理科室から体育館をみると、ツバキの花に群れとんで興じる、小鳥のさえずりを、なき白山に思いを馳せてみることに、しばしでありませう。

白山もとりに去られ、校舎も一部新しくなり、地域環境も少しづつ、変化する中に七年ぶりにみる子ども達も、たし

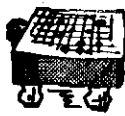
なかに上達しません。ある時期二目ほど急に強くなったことがあります。それは知人のH氏(六段、三小父兄)の指導のおかげだろうと今でも感謝しておりますが、彼の言った言葉の一つに「ヨミは方向を考えて」があります。「どんなに先まで読んでもまちがった方向を読んだのでは、そこで勝ち、部分的によくなくても全体としては損をしている。反対に方向が正しければ小々まちがったヨミをしても深傷は負わない。正しい方向性を保つことが大切」と、いうのです。

かに変わってきたように思われます。みだれたトイレのはきものを、せつせと並べている低学年の子どもの姿をみるにつけ、三小も内から変わりつつあるということを強く感じております。

子育て云々「獅子は、わが子を千仞の谷におとす」という、これが子育ての要諦ではないかと思えます。親子べったり、つきはなし、そこに親の調和のとれた日常の指導と役割から強く要請されるよう願っております。

獅子奮じんの親を心から、願っております。

教育も同じことがいえるのではないでしょう。三小の子どもは天心爛漫で少々荒っぽく落ち着くところがないように思います。反面勢いがある大切なことに對しては生き生きと食いついてくる子どもらしさを備えています。この無限の可能性を秘めたみずみずしい子どもたち、正しい方向性を保つよう指導したいと思っております。



が ん ば

五年五組 河野 偕子先生

出身地 長崎市(現在湊町)
趣味 スポーツ
特技 なし

初めて教職についたのが五島の三井楽中学校、連日クラブの練習に明け暮れた毎日でした。「わが青春は子供と共にあり」と頑張ったものでした。その子供達も子の親「子供が生まれました」「小学校

四年三組 吉田 恭子先生

終戦の年に満州で生まれ、引きあげてきて島原市(白土湖の近く)が生活の根拠地。

小学生時代は戦後の欠乏の中で育ち、耐困難訓練はできているつもりです。南串二小を振り出しに西郷小、大野木場小、島一小と十六年間を経て島三小ではまだホヤホヤの先生ですが、フアイトと情熱では人一倍。乞うご期待、子ども達と一緒にがんばります。

子ども達を見てみると、教師と周りの友達との接触の中で何事につけても一生懸命子どもの世界なりに頑張つて努力し、そしてまた悩みながら

に上がりました」と手紙をもらうたび、喜びと同時に自分の年令を感じずにはおれませんが、もはや教え子と教師という関係より人間と人間という関係でおつきあいができるのが嬉しいことといえます。

現在、自宅は三小地区で川尻です。歩いて五・六分。広域人事で通勤時間が伸びた昨今、本当に恵まれすぎているのではないかと思います。そ

精一杯生きているなあと感じさせられます。大人の目から見たらささいなことでも、子どもは真剣に考え、気を使っているようです。友達を大切に考える子ども達は、そのことで心をくだし、その中で社会性を身につけ、豊かな心をつちかかっていくのだらうと感じます。

子ども達をとりまく社会も日々変化がはげしい中で、何がきても、自分自身の知性と精神力で勇気をもってことにあたっていきける子どもを育てたいと思っています。

趣味 編み物 花 ドライブ
特技 考えれば考えるほどわからない??

の分しつかり頑張らなければと思っております。

三小のみなさんは明るく、天真爛漫、フアイトのかたまりのような所があります。季節でたとえれば夏、花ならひまわりという感じでしょうか。そういう三小が好きです。転任して日はまだ浅いですが、その中でことばの悪さやけじめ(節度)がないことを感じるのには私一人でしょうか。三小の教員であると同時に育友会員でもあります。今後ともよろしくお願いいたします。



五年四組 高橋 尚子先生

熊本生まれの熊本育ち、スポーツが何よりも好きで、動いている時が一番幸せを感じています。特に球技が大好きです。学生時代は大学唯一の練習場クラブ(練習量、激しさ、きつさともに)と称されていたハンドボール部に所属しており、毎日四時間近く、ひどい時には夜十時すぎまで、まっ黒になり練習をしていました。そうやって毎日々体力の限界に挑戦してましたので、ちよつとぐらいではくたびれた

三年一組 川島 多恵先生

はじめまして、今年大学を卒業したばかりのホヤホヤの新米教師です。

生まれも育ちも島原ですが三小には八年前、水泳教室ではいったきりで、すっかり変わっているのにびっくりしました。

私は、私の生活自体が趣味特技みたいなもので、ハードな毎日を体力だけでこなして

りしませんし、押ししても倒れたりしません。現在、五年四組の担任をやらせていただいています。みんな明るく素直な子どもたちです。毎日毎日、いろいろなことが次から次へとやってきます。そういう中で、子どもたちと心がひとつになつて何事にも取り組んでいけるように精一杯頑張ろうと思えます。そして、みんなのことを考え、ひとりひとりを大切に

そのままコンパクトサイズ」というところです。

大学時代は「こんなふうにはやってみよう」と色々考えていたのですが、実際にやってみるとなかなかうまくゆかず理想と現実を一致させるのはむずかしいものだづくづく感じさせられました。

これからは毎日元気よく私に群がってくる子ども達を見ていると大変すくわれた気持ちになるのです。

編集後記

この号は、各専門部の活動方針と、新任先生方の自己紹介、三小着任の抱負等をお願いしました。お忙しい時期にご協力下さいました。ありがとうございます。

七月号は、新しい企画を設けますので、皆様方のご協力とご声援をお願いします。

- 大隅謙一郎 坂庭 克雅
山下 利秋 田浦エイ子
原口 芙蓉 松下 和子
佐々川 和子 前田 清徳
下田 沙基子 織田 幹夫